人穴小 学校だより

ふれあい

令和３年　７月　１日
富士宮市立人穴小学校
第３号

ＴＥＬ５２－００４０

ホームページ　http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/e-hitoana/

学校教育目標『自らをきたえ　共に生きる子』

自然から学ぶ子供たち…

柏木　武文

爽快な夏の気分を満喫できるシーズンが近づいて参りました。プール開き式を行い、水泳の授業も始まりました。まだちょっと冷たいプールの中で、子供たちの笑顔が輝いています。早いもので、１学期も残すところ１月足らずとなりました。１学期のまとめと振り返りをしながら、夏休みや２学期の学びにつながるよう充実した日々を過ごしていきたいと思います。

人穴小の運動場の西側には池があります。昭和40年代の写真には写っていますから、おそらく現在の位置に旧校舎が建築されてまもなく作られた池ではないかと推測しています。子供たちには、この池が大人気です。特に低学年の子供たちは、休み時間になると一直線に池に走る姿をよく見かけます。放課後も家の人のお迎えが来るまでの時間（お迎えが来てもしばらく…）、熱心に池で遊んでいます。

この池は、今の季節、オタマジャクシがいっぱいです。子供たちには「タマジャク」と呼ばれて人気のようです。少し前にはモリアオガエルの卵では？と思える白い泡の固まりのような卵塊が産み付けられていました。池にはメダカもたくさんいて、水温が上がり始めるこの時期には卵を産み、よく見ると小さなメダカの泳ぐ姿を見つけることができます。川が流れ込んでいる池ではありませんから、メダカは誰かが池に放流したものが、自生して住み続けているのかもしれません。この他にも水に集まるいろいろな生き物を目にします。小さな池ですが、絶滅が心配されるような貴重な生き物たちも身近に見ることができるすてきな池です。

さて、この池のメダカの数がずいぶん少なくなりました。池で遊んでいる子供に「最近、メダカが減ったよね？」と尋ねると、子供たちは、「うん、少なくなったよ。」「オタマジャクシが食べちゃったんだと思うよ」と、話してくれました。オタマジャクシがメダカを食べるとは…。不思議に思いながら話を聞いていると「だって、オタマジャクシが共食いしていたから。」と、彼らの分析を教えてくれました。なるほど、確かにオタマジャクシの共食いはあり得ないことではないでしょう。オタマジャクシがメダカを食べることは考えにくいですが、死んだメダカを食べることはあるかもしれません。子供たちは、池での遊びの中で、いろいろな発見や思考をしていると改めて感じました。

本当のメダカの数が減った原因は違うところにあるのかもしれません。水質の悪化や他の外敵の侵入とか…。でも、自然の中で遊びながら、発見し、考え、学んでいくことは、子供たちにとって貴重な財産になっていくと考えています。やがて、自分で疑問を調べたり、試したりすることにもつながると思います。そして、生態系に目を向けた生物の不思議や、自然の動植物と共存することの大切さ、或いは小さな命を大切にする生命尊重の気持ちなど、次々と学びが発展していくことでしょう。水の事故のニュースも聞かれるようになる季節です。安全には十分に注意しながら、自然から学ぶことは、人穴小だからできる大切にしたいことの１つと感じています。